

Study Plan6 政策立案

今回のスタディプランでは、政策立案について説明します。第2回のスタディプラン「リサーチとは」の中で、政策とは議題に対する担当国の理想と現実のギャップを埋める手段であると説明しました。今回は、もう少し掘り下げて説明します。

1. 政策とは

「政策」とは、一言で言えば「言いたいこと」です。大使であるみなさんは、今回の会議に出席したからには、担当国の立場から議題に関する利益を得る必要があります。利益を得るということは、議題に対する担当国の理想と現実のギャップを埋めて、少しでも現実を理想に近づけることです。理想と現実を埋める手段が、政策ということになります。従って、会議において政策はあなたの国の「言いたいこと」になります。

2. 政策立案

政策を立てることが、政策立案です。繰り返しですが、政策は理想と現実のギャップを埋める手段です。

従って、政策立案は、まず理想と現実をしっかりと認識することから始まります。理想と現実の例は、第2回のスタディプランに例を挙げました。

次に、現実と理想のギャップを埋めるために、現在まで行われてきた議論や案を確認します。例えば、過去の国連総会でなされたスピーチや議事録を確認しましょう。

また、実際作成された案の内容を確認するとともに、核軍縮という議題において行われている議論を、United Nations Office for Disarmament Affairsなどのホームページで確認してみましょう。

その上で、政策と政策を支える理由を考えます。

政策は3つ程度用意したほうがよいでしょう。複数用意した上で、優先順位を決めます。なぜならば、会議が始まってから主張が受け入れられないと分かった時、あるいは会議の流れが予想しなかった方向に向かい、主張が会議の流れに合わなくなった時に、政策を1つしか用意していないと、会議で行動できなくなってしまうからです。

もちろん、他国に納得してもらえるように政策の裏付けをしっかりと考えることや、会議

の流れを事前に予測することは重要です。しかし、会議が事前に思い描いていたように進まなかったときの対策はきちんと用意する必要があります。不測の事態に対する最も良い対策が、政策を複数用意することです。

3. 政策を実現するために

どれほどしっかりとした政策立案を行なっても、会議で実現されなければ意味がありません。言い換えれば、政策が公式に会議の成果文書として残らなければ意味がありません。そのために何が必要であるかを説明します。

3.1. 理由を考える

なぜその政策を提案するのかということをきちんと他国に説明できるようにする必要があります。ポイントは、自国の政策が他国にとってもプラスになるということをできる限り説明することです。もちろん、すべての他国に対し、自国の政策がプラスとなると説明することは難しいでしょう。しかし、なるべく多くの他の国にとってプラスとなることを示せば、その政策は支持を広げることができます。最終的に、多くの賛成を得て決議として採択される可能性も上がります。

また、政策を提案する理由を考えれば、どこまで妥協できるかを明確にできます。なぜならば、その政策で達成したい目的が明確になるからです。目的が明確になれば、どこまでの妥協であれば、その目的を達成できるかがはっきりします。そうすれば、妥協できる点と譲れない点(ボトムラインと呼びます)も自然と明確になります。その結果、他国との交渉を生産的に行なうことができるでしょう。

3.2. ペアデリゲイツを活かす

今回の会議は、2人で1つの国を担当するペアデリゲイツ制度をとっています。事前に2人の役割分担を決めておけば、有意義に時間を使うことができるでしょう。会議中も連絡を密に取ることを心がけてください。

3.3. 時間を考える

会議の時間は有限です。DR や修正案(第7回のスタディプランで詳しく説明します)の締め切り時刻も決まっています。従って、締め切り時刻から逆算して、いつまでに何をすればよいのかということを常に考える必要があります。目的意識をはっきり持って会議に臨まないと、その他の大使に流されてしまい、時間だけが過ぎることになります。まずは、修正案締め切り時刻から逆算して大枠を考えて、その後、徐々に細かく設定していきましょう。

もちろん、議場の流れに合わせて、途中でタイムスケジュールを変更することも必要です。しかし、議場では基本的に微調整のみ行うという意識を持ちましょう。そうしないと、議場の流れに流されてしまいます。会議が終わったときに、政策を何も実現できなかったということがないように気をつけましょう。

以上で今回のスタディプランは終了です。確かに政策立案は難しいと思います。しかし、言いたいことをしっかり用意すると、会議をより楽しむことができるので、頑張ってみましょう。

次回のスタディプランでは、決議の説明をします。

文責：JCGC